

### 夏の音楽祭を楽しむ

欧米の夏の風物詩となっているクラシック音楽祭。近年では日本国内においても各地でさかんに開かれています。今回はその一部と関連所蔵資料をご紹介します♪



### 【ヨーロッパの音楽祭から】

#### ザルツブルク音楽祭（オーストリア）

モーツァルト生誕の地でおなじみのザルツブルクでは、1920年から現在のような音楽祭（正式には演劇祭を含めた祭典）が開かれています。レジデントオーケストラはウィーン・フィルが務め、豪華な出演陣・プログラムが魅力。

『モーツァルト：フィガロの結婚』アーノンクール指揮, 2006 ★DVD992-3

『リーダーリサイタル』シュヴァルツコプフ, ムーア 1956 ★2Q1.37

#### バイロイト音楽祭（ドイツ）

ワーグナー自らが楽劇『ニーベルングの指環』の上演のために作った音楽祭。ワーグナーのオペラ作品のみが上演される。ルートヴィヒ2世の援助によって建てられた演奏会場は、特殊な構造によって独特の音響を持つ。熱烈なワーグナー音楽支持者が世界中から集まることで知られる。

『ワーグナー：ニーベルングの指環』ブーレース指揮, 1980 ★DVD671-7（全7枚, 4つに分割され収録）

#### ヴェローナ・オペラ・フェスティバル（イタリア）

古代ローマ時代に造られた円形格闘技場、アリーナ・ディ・ヴェローナで行われる世界最大の野外オペラフェスティバル。広い空間ならではの良さを生かし、『アイダ』や『トゥーランドット』など華やかな場面を持つオペラが多く上演されている。

『ブッチーニ：トゥーランドット』カレッラ指揮, 2010 ★DVD1663

『ヴェローナ スター・ガラ・コンサート 1988』カレーラス, ドミンゴほか ★1L6.42-3

#### プロムス（イギリス）

8週間で100以上のイベントが開かれる、大規模な音楽祭。最終日の公演はラスト・ナイトと呼ばれ、「威風堂々」、「ルール・ブリタニア」などイギリスを讃える曲が多く演奏される。公園に大型モニターを設置して演奏会の様子の中継したり、立見席を安価で多く販売したりして、市民に親しみやすいイベントとして定着している。

『プロムス・ラスト・ナイト：プロムス100周年』A.デイヴィス指揮, 1994 ★BLD151

音楽祭についての詳細はこちらの資料もどうぞ♪

●田中良幸『絶対行きたい！世界の音楽祭』ヤマハミュージックメディア 2010 ★0.69-T153-10

●高崎保男・黒田恭一編『ヨーロッパの音楽祭』朝日新聞社 1994 ★0.69-T139

●S.ギャラップ（城戸朋子・小木曾俊夫訳）『音楽祭の社会史：ザルツブルク・フェスティバル』法政大学出版局 1993 ★0.69-G138

★印は請求記号

## 【国内の音楽祭から】

### パシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF)

レナード・バーンスタインによって創設された国際教育音楽祭。アカデミーに参加する若手音楽家は、世界を代表する音楽家たちから指導が受けられる。アカデミー生によるオーケストラの演奏会は、本拠地の札幌のほか、東京などでも開催される。

『Harmony of peace』 M.T.トーマス指揮, PMF オーケストラ 1999 ★4A5.68-9

谷口雅春『奇跡の音楽祭：札幌・PMFの夏』北海道新聞社 2005 ★0.69-T156-05

### 草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル

温泉地で有名な群馬県草津町で30年以上続くイベント。会期中、日中はそれぞれの楽器ごとに講習会が開かれ、夕方にはアカデミーの講師陣が日替わりで出演する演奏会が開かれる。

『メモリー・オブ・ヴォルフガング・シュルツ』 W.シュルツ(F)ほか ★4E3.53

『ノイコム：レクイエム ほか』 デラー指揮, 草津アカデミー合唱団ほか ★2N7.61

### セイジ・オザワ松本フェスティバル (旧サイトウ・キネン・フェスティバル松本)

長野県松本市で開かれる音楽祭は、今年から名称を新たにする。指揮者小澤征爾を中心に世界中から音楽家が集まり、オペラとコンサートが開かれる。地元の小中学生向けコンサートなど、生の音楽を若い世代に伝えることに力を入れている。

『サイトウ・キネン 20th アニバーサリーBOX』 小澤征爾指揮 ★DVD1656-9 (4つに分割され収録)

最近受け入れた新刊・新譜から、おすすめの資料をご紹介します♪



## 【音源資料】

『フォーレ：ヴァイオリン・ソナタ ほか』 榎本大進(Vn)、エリック・ル・サージュ(Pf)

請求記号：4G9.02

ピアニストのル・サージュによる、フォーレのピアノ伴奏つき室内楽曲録音集のうちのひとつ。ソリストとして、ベルリン・フィルの第一コンサートマスターとして活躍中の榎本大進とともに、2つのヴァイオリン・ソナタと小品4曲を演奏している。ヴァイオリン、ピアノともに繊細で色彩感豊かな音色が心地よく、気がつくともフォーレの音楽から紡ぎ出される世界を漂っているかのような感覚を覚える。フランス音楽の香りや柔らかな流れを楽しめる一枚。

## 【図書】

三澤洋史『オペラ座のお仕事：世界最高の舞台をつくる』早川書房 請求記号 O.9-M68-14

新国立劇場の合唱指揮者、三澤洋史のエッセイ。音楽家になった経緯から、オペラ現場での数々のエピソードを飾らない言葉で綴っている。作品がより良いものになるように、受け持つ合唱団のメンバーが不安なく歌うことができるように、ときには人と激しく対立しながらも日々音楽と向き合う姿が印象的だ。オペラが実際どういった稽古を重ねて舞台上で上演されるのか、三澤が実際にスタッフとして携わったバイロイト音楽祭での裏話や、研修先のミラノ・スカラ座での様子なども興味深い。